

2024年7月5日

苫小牧市長
岩倉 博文 様

連 合 北 海 道 胆 振 地 域 協 議 会
会 長 日 西 和 広

北海道平和運動フォーラム日胆地域協議会
代 表 田 畑 明 洋

立憲民主党北海道総支部連合会第9区総支部
代 表 山 岡 達 丸

米艦船ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」の
苫小牧港への寄港に反対する申し入れ

貴職におかれましては、日夜、市民生活の安心・安全を守るために、取り組まれておりますことに敬意を表します。

さて、米艦船ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」が2024年6月28日に苫小牧港へ7月12日から13日までの期間で寄港を希望していることが明らかになりました。

苫小牧市は、北海道において唯一「非核平和都市条例」がある都市であり、核兵器搭載の可能性のある米艦船の寄港は、容認することはできません。苫小牧市は、この度、寄港する米艦船「ラファエル・ペラルタ」の核兵器搭載能力については、当該艦船にその事実を直接確認しているわけではなく、また市民に十分な説明責任を果たしているとも言えず、不安を抱く市民もおります。

人命救助、その他の人道上の理由、航海に支障が生じる等による緊急性が生じているのであれば、公共の港湾として、その要請に応えていくことまで否定するものではありませんが、今回の寄港目的は軍艦にとっては軍事行動を意味する「通常入港」であり、これらの事情を有するものではありません。

当該の艦船に対して、核兵器搭載の可能性について、今からでも直接の確認を行うとともに、市民に対する十分な説明責任を果たす必要があります。さらには、民間商業港である苫小牧港への寄港は、地域紛争が起こった場合に米国が民間港を使用するため準備しているものではないか、度重なる米艦船の寄港は民間商業港を準軍港として固定化し、「日米新ガイドライン」による自治体協力をなし崩しに進めるもので、自治体に軍事的役割を求めているのではないかと等という声も寄せられており、これらの懸念に応えられないのならば、私たちは米海軍ミサイル駆逐艦「ラファエル・ペラルタ」の寄港に反対いたします。

貴職におかれましては、苫小牧市民をはじめとする国民の安全を確保し暮らしを守り、苫小牧市民・道民の平和と軍縮を求める立場から、非核平和都市条例に反する米艦船の苫小牧港への寄港を容認しない意思を表明されますよう強く要請します。

以 上